

サーモン養殖など

農林水産振興で協定

深浦町、みち銀

深浦町とみちのく銀行は3日、「食と農林水産業」の振興と活性化に関する業務推進協定を締結した。町と弘前大食料科学研究所、民間事業者が現在、準備を進めているサーモン養殖をはじめ、水産業分野を中心とした事業展開を目指す。

協定では①生産から加工、販売に至る6次産業化②農林水産業経営の複合化③農林水産業の法人化―について

協定書に署名後、握手を交わす吉田町長⑤と高田頭取



同行が生産者らに対し資金調達にとどまらず、幅広く支援する。町役場で行われた締結式で

は、吉田満町長と高田邦洋頭取が協定書に署名した。

同行は既に農林漁業の6次産業化を後押しする「とうほくの mira い応援ファンド」支援先第1号として、深浦町の「おおもり海山」

のマグロ冷凍加工場を選んでいる。高田頭取は「深浦町はポテンシャルが高く（食と農林水産業振興の）モデルケースになる地域」「深浦産マグロの6次産業化での新加工場建設を確実に進めたい」などと述べた。

今後の事業展開につ

いて吉田町長は「海の魚の陸上養殖について、弘前大、民間業者、行政、銀行の4者で可能性を探りたい」とキックオフ、アトラクション、サーモンの養殖事業の実現に意欲を示した。

同行は弘前市や八戸市など県内自治体と同様の協定を締結しており、深浦町が6番目となる。（本間善幸）